

第三課題

『〇〇〇特区』

課題内容:

2005年6月に開催されたIFYA NAGOYA 2005では、世界各国から集まった若手建築家約50名が、①名古屋市都心界隈地区、②名古屋港ウォーターフロント地区、③中部国際空港周辺地区、の課題地を対象に、それぞれの30年後の循環型未来都市を提案し、図面と模型で表現しました。成果は、美術出版社から、「循環型未来都市—サステナブルシティ」菊竹清訓編集として出版されています。本課題では、都市計画の課題のひとつとして、名古屋市内で既存建物が残りつつも異なる様相の4つの地区に対しての提案を課題とします。住民や使用者に使い方を委ねるような街のプロトタイプの計画で終えることなく、しっかりと建築を設計する。その際、「外国人居住」「高度教育」「重点研究」「エンターテインメント」「コミュニティ」「高度医療」「文化」「デザイン」「ものづくり」「スポーツ」といった「〇〇〇特区」というキーワードを提案し念頭におく。

チーム構成:

3～5人を自分たちで構成して、それを1チームとします。

ディスカッションやプレゼンテーションなどで力を合わせる。

課題地:

①栄ミナミ地区、②堀川地区、③大須地区、④曙通商店街地区のいずれかのうち、↓の航空写真の範囲としますが、提案内容に応じていくらでも範囲を拡げてよいとする。



①栄ミナミ地区



②堀川地区



③大須地区



④曙通商店街地区

中間チェック用提出物:

スタディ模型、パワーポイント。

最終提出物:

2週間でディスカッション・スタディした結果を、↓の要領で素晴らしく表現する。

- ・50分の1のジオラマ部分模型 (1. 素材感(建築の大切な要素), 2. 生活感(空間の大切な要素)が重要です)
- ・ポートフォリオ (参考図書がありますので、グループ分け後の課題の補足の際に紹介します)

課題日程:

○5月28日(木) 課題の説明

13:00～14:30 出題、グループ分け、課題の補足、名古屋の都市計画の解説、チーム分け→課題スタート!

○5月28日(木)～6月1日(月) 課題地の決定→〇〇〇の決定→ディスカッションとスタディ

チーム毎に実物模型のみでディスカッションとスタディを進め、必要に応じて(必要でなくても)北川教員か幸田さんか鈴木さんへ質問すること。24hours。メールもよいが、積極的に来室してチェックを受ける。まだCADは使わない。

○6月2日(火)～6月4日(木) 各チームのスタディ内容のクオリティを上げる 実物模型のみでスタディ・表現する

6月1日(月)までに受けたアドバイスをもとに、各チームで、スタディ内容のクオリティを上げることに専念し、必要に応じて(必要でなくても)北川教員か幸田さんか鈴木さんへ質問すること。24hours。メールもよいが、積極的に来室してチェックを受ける。まだCADは使わない。

○6月5日(金)～6月8日(月) 各チームで考えたことを明確にして強度を増す 実物模型のみでスタディ・表現する

6月4日(木)までに受けたアドバイスをもとに、各チームで、スタディ内容のクオリティを上げることに専念し、必要に応じて(必要でなくても)北川教員か幸田さんか鈴木さんへ質問すること。24hours。メールもよいが、積極的に来室してチェックを受ける。まだCADは使わない。

○6月9日(火)～6月11日(木) 建築を設計する 実物模型のみでスタディ・表現する

○6月12日(金)～6月15日(月) 素晴らしい建築を設計する 実物模型のみでスタディ・表現する

○6月15日(月)～6月17日(水) 素晴らしい建築を表現する ジオラマ部分模型とポートフォリオで表現する

○6月17日(水) 24時 50分の1のジオラマの部分模型とポートフォリオを北川研究室へ提出

○6月18日(木) 講評会 50分の1のジオラマの部分模型とポートフォリオを用いて、10:30～14:30にチーム毎に講評し、優秀作品を選びます。

○11月下旬 2週間の全員の成果を、名古屋市中区で開催されるエキシビションにて展示します。

備考:

2005年に開催された前述の国際会議の期間中、名古屋市内にて菊竹清訓氏、内藤廣氏、古谷誠章氏、長谷川逸子氏、張永和氏他、国内外の著名な建築家による、循環型未来都市についての講演会などがありました。「循環型未来都市—サステナブルシティ」に内容が全て掲載されていますので、課題中も課題後も含めて、参考にしましょう!